

水稲用中・後期除草剤

# スカーゴ<sup>®</sup>A<sub>エス</sub>

## 1キロ粒剤



ヘラオモダカ



ノビエ



ヒルムシロ



ウリカワ



®は石原産業(株)の登録商標

# 1 はじめに

スケダチエース1キロ粒剤は、フルセトスルフロンを有効成分とする、1成分のスルホニルウレア (SU) 系の水稲用中・後期除草剤です。  
高葉令のノビエに対して高い除草効果を示すことから、一発処理剤等の取りこぼしや後発生対策として臨機防除に適した除草剤です。

# 2 特長

## ① 5葉期までのノビエにすぐれた効果

スケダチエース1キロ粒剤は、高葉令のノビエにすぐれた効果を発揮するノビエ対策剤です。  
また更に、有効成分のフルセトスルフロンは、ノビエ以外に、ウリカワやヒルムシロなどの多年生雑草にも高い除草効果を示します。(ただし、スルホニルウレア抵抗性雑草に対しては効果が期待できません。)

## ② ゆとりある散布適期

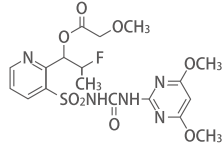
**移植後14日～ノビエ5葉期(但し、収穫45日前まで)**

スケダチエース1キロ粒剤は、雑草の発生に合わせて移植水稲では移植後14日からノビエ5葉期までの幅広い時期に使用でき、圃場に応じた体系防除を可能にします。

## ③ 環境への負荷が小さい

スケダチエース1キロ粒剤は、水生生物に対して高い安全性が確認されています。  
また、製品1kg中に含まれる有効成分量はフルセトスルフロン3.3gと非常に低薬量で、環境負荷の少ない除草剤です。

# 3 本剤の特性

試験コード	SL-0401 (H) 1kg 粒剤	融点	172 ~ 176℃	
有効成分(一般名)	フルセトスルフロン	水溶解度	200mg/L (20℃)	
製品中の含有率	0.33%	人畜毒性	普通物※	
化学名	1-[3-[(4,6-ジメトキシピリミジン-2-イルカルバモイル)スルファモイル]-2-ピリジル]-2-フルオロプロピル=メトキシアセタート	製剤 毒性	急性経口毒性	ラット♀ LD <sub>50</sub> > 2000mg/kg
構造式			急性経皮毒性	ラット♂♀ LD <sub>50</sub> > 2000mg/kg
		水生生物 への影響	コイ	LC <sub>50</sub> > 1000mg/L (96hr)
			ミジンコ	EC <sub>50</sub> > 1000mg/L (48hr)
		作用機構	ALS阻害、非ホルモン系吸収移行型	
		吸収部位	根部、基部、茎葉部	
薬害症状	生育抑制			

※毒劇物に該当しないものを指している通称。

# 4 殺草メカニズム

## 雑草の症状



## ●フルセトスルフロン

植物体内で合成される分岐鎖アミノ酸(バリン、ロイシン、イソロイシン)の生合成酵素であるアセト乳酸合成酵素(ALS)を阻害します。これにより雑草の細胞分裂を阻害し、生育を停止させます。  
新葉展開を強く抑制しますが、効果の発現は比較的ゆるやかで、3~4週間かけて雑草全体を枯殺します。

# 5 殺草スペクトラム

日植調委託試験、石原産業(株)社内試験結果より

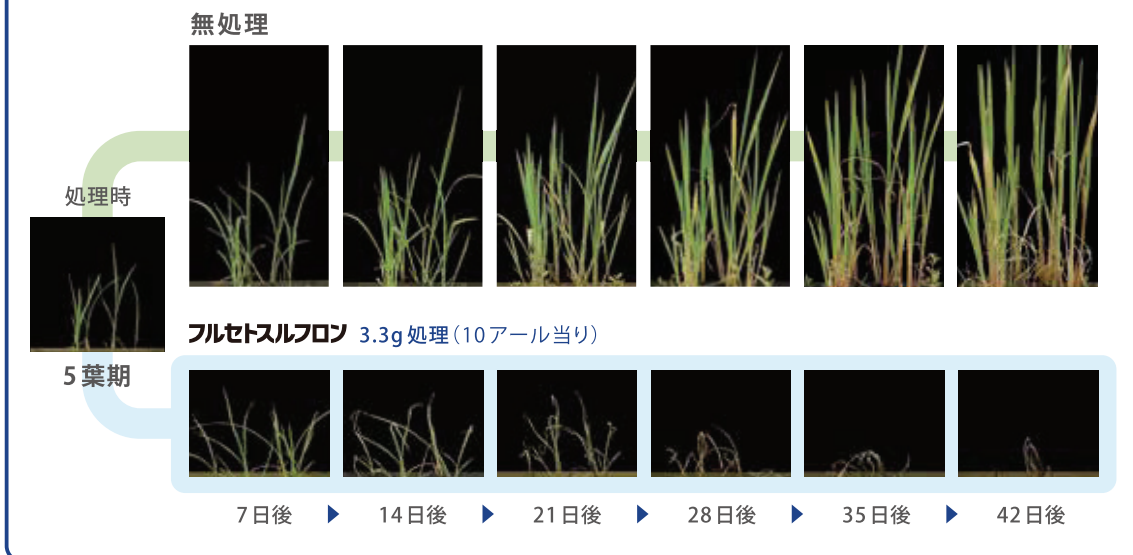
雑草名		ノビエ	マツバイ	ヘラオモダカ	ウリカワ	ヒルムシロ
有効成分量 (10アール当り)						
フルセトスルフロン	3.3g	5葉期	増殖期	4葉期	4葉期	発生期

※SU抵抗性雑草に対しては効果が期待できません。

# 6 作用特性

## ①ノビエに対する効果

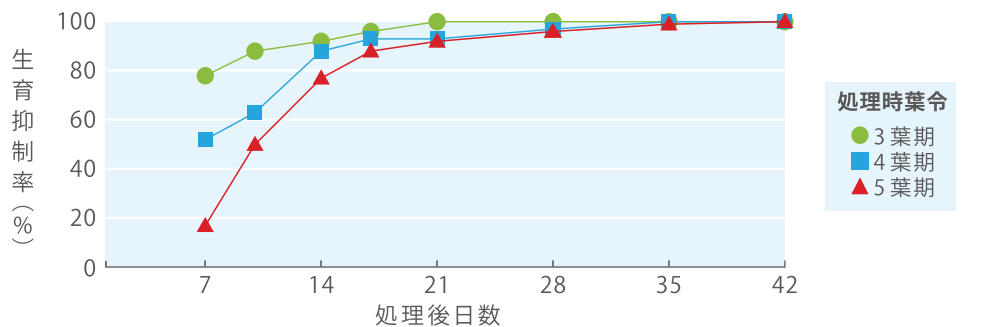
### 経時変化写真



平成20年 石原産業(株)中央研究所

### 各葉令のノビエに対する効果発現速度

フルセトスルフロン 3.3g 処理 (10アール当り)



生育抑制率(%)は遠観調査

平成20年 石原産業(株)中央研究所

## 6 作用特性

### ② 残効性

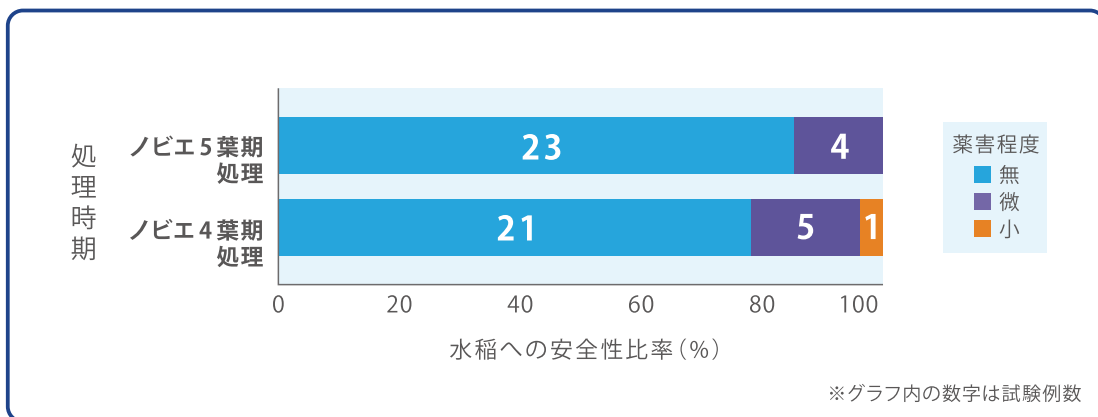
スケダチエース1キロ粒剤は、対象草種に対して約3週間程度の残効を有します。しかし、減水深が大きい条件では短くなる傾向にあります。

草種	土性	残効期間 フルセトスルフロン3.3g (10アール当り) 処理
ノビエ	沖積埴壤土	21~30日(長相当)
	洪積埴壤土	

平成17年度 日本植物調節剤研究協会 / 作用特性試験2 結果より

### ③ 水稲に対する安全性

スケダチエース1キロ粒剤は、適期に使用することで、水稲に対する安全性が高いことが確認されています。



平成24年 日本植物調節剤研究協会 委託試験結果より

### ④ 処理時(後)の環境が除草効果に与える影響

雑草発生密度	極端に雑草発生の多い条件では、除草活性が若干低下する傾向にあります。
湛水深	湛水深の差で最終的な除草効果の差は見られませんが、水深が浅いほど初期効果は早く発現します。
減水深	極端に大きい条件(2cm/日以上)では効果不足のリスクが高まります。
降雨	処理後の降雨による影響は少ないですが、処理後4日以内にオーバーフローした場合は効果不足のリスクが高まります。
土壌(土性)	効果に与える影響は少ないです。
気温	処理後の気温が高いほど、除草効果の発現および完成は早くなりますが、最終的な除草効果に差は見られません。

# 7 上手な使い方

スケダチエース1キロ粒剤は、初期剤・中期剤との体系防除、または一発剤の後処理剤として雑草の発生にあわせて移植後14日からノビエ5葉期までの幅広い時期に使用できます。ノビエに卓効を示すため、体系処理のノビエ残草処理剤として相応しい薬剤です。

ただし、より確実な除草効果を出すために、ノビエ4葉期までの散布をおすすめします。

## ① 使用例

### 1. 初期剤・中期剤との体系防除



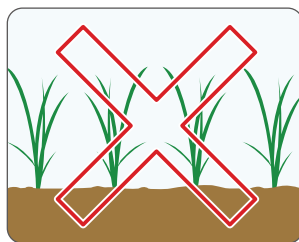
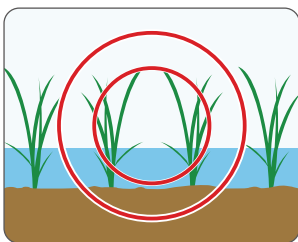
### 2. 一発剤との体系防除



※地域、作型、気象条件、前処理剤の使用時期や残効期間により、雑草の発生状況は異なります。

## ② 使用のポイント

安定した除草効果を発現させるため、以下の点に注意してください。



### ■ 水管理が重要!

散布後少なくとも3~4日間は通常の湛水状態(3~5cm)を保ち、田面を露出させないようにしてください。また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。

- 本剤はSU剤であるため、SU抵抗性雑草の発生している水田では使用をさけてください。
- 散布後に多量の降雨が予想される場合は防除効果が低下することがあるので使用をさけてください。

## 8 適用雑草と使用方法

※本内容は平成27年11月25日付の登録内容に基づいています。

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植 水稲	ノビエ マツバイ ウリカワ ヒルムシロ ヘラオモダカ	移植後14日～ノビエ5葉期 但し、収穫45日前まで	1kg	2回以内	湛水散布

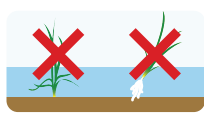
フルセトスルフロンを含む農薬の総使用回数：2回以内

## 9 使用上の注意事項

- 使用量に合わせて秤量し、使いきってください。
- 本剤を移植水稲に使用する場合は前処理剤との体系で使用してください。
- 本剤の使用時期は、ノビエの5葉期までなので、時期を失しないように散布してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にブレがあるので、必ず適期に散布するように注意してください。  
ウリカワ4葉期、ヒルムシロ発生期までが本剤の散布適期です。
- 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行ってください。  
未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行ってください。
- 散布に当たっては、水の出入りを止め、湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(3～5cm)を保ち、田面を露出させないようにし、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけてください。
  - 砂質土壌の水田および漏水田(減水深2cm/日以上)
  - 軟弱な苗を移植した水田
  - 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
- 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので、使用をさけてください。
- 散布後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがありますが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていません。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意してください。
- 本剤を散布した水田の田面水を他の作物に灌水しないでください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。



極端な漏水田



軟弱な苗を移植したとき、  
苗の活着が不十分なとき



異常高温

ラベルを守って正しく使用しましょう!

適用作物、薬量(希釈倍数)、

使用時期、使用回数を守りましょう

石原は「食の安全」を大切にします

- ラベルをよく読んでください。
- 小児の手の届くところには置かないでください。

- 記載以外には使用しないでください。
- 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。

**ISK** 石原バイオサイエンス株式会社

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4番14号

ホームページアドレス <http://ibj.iskweb.co.jp>